

2016年3月28日

尾張北部地域ごみ焼却処理広域化第1小ブロック会議
会長 江南市長 澤田 和延 様

日本共産党2市2町議員団

犬山市議員団	団長	岡	寛
江南市議員団	団長	東	義喜
扶桑町議員団	団長	小林	明
大口町議会議員		吉田	正

住民無視の新ごみ処理施設建設地の決定に対する抗議の申し入れ

3月25日の第1小ブロック会議において、4首長は、「おおむね地元は合意」などと勝手に結論づけ、江南市が進めてきた中般若町北浦地区を新ごみ処理施設の正式な建設地と決定しました。

しかし、以前から反対を表明してきた扶桑町小湊地区は、今年2月12日、区長、副区長、区会役員連名で江南候補地の撤回を強く求める申し入れ書をあらためて提出しています。

扶桑町内の地元1地区が、区をあげて明確に反対しているにもかかわらず、これを無視し「おおむね地元との合意形成は得られた」などと、黒を白と言いくるめる勝手な解釈で建設地を決定したことは、全国的にも例をみない住民無視の暴挙であり、到底認められません。

新ごみ処理施設江南候補地をめぐることは、これまでも前江南市長による、スジの通らない一方的な受け入れ宣言や、いちご観光農園、お風呂、緑あふれる公園整備といったバラ色の還元策を根拠もなく振りまいた地元説明会、「条件付き賛同」のあいまいな選択肢まで「賛同」に含めてしまったアンケートの結果集計等の不公正な手法、前市長自ら宣言した同意取得期限の無視、北浦ありきの結論の押しつけなど、節目節目で繰り返された行政の正当性を欠く対応が、候補地地元住民の行政への不信感を増幅させてきました。さらなる今回の地元合意なしでの建設地決定は、住民の思いを幾重にも踏みつけにするものです。

澤田・江南市長は「これ以上、候補地の検討に多くの時間を費やして新ごみ処理施設の建設を先送りすることはできない」などと、決定を正当化しようとしています。候補地問題が行き詰まりを繰り返しここまで遅れた原因と責任は、ひとえに歴代の2市2町首長にあります。行政自らの責任を棚上げして、住民無視の決定を正当化することは許されません。

日本共産党2市2町議員団は、地元合意のない新ごみ処理施設建設地決定に強く抗議し、撤回を求めるものです。さらに、2市2町の全住民に対し、ごみ減量への協力を緊急に強く呼びかけ、全住民参加で可燃ごみの大幅な減量を達成すること、「自分たちのごみは、自分たちの地域で責任を持つ」自区内処理へ転換を図ることを求めます。

連絡先：日本共産党江南市議員団
東 義喜（江南市役所内日本共産党議員団室）

